

“結愛” ~ゆい~

『やけどに注意しましょう!!』

朝晩の寒さが厳しくなってきました。カイロや湯たんぽ、電気毛布などの暖房機器を使用することが多くなる時期です。消費者庁には65歳以上の高齢者が不注意や暖房器具などの誤使用によるやけどの報告が多数寄せられており、冬のやけど事故に注意を促しています。

今回はやけど事故の発生頻度が高い低温やけどと着衣着火の2つについて説明していきます。

○低温やけど

低温やけどは、約40～50℃の比較的低い温度のものに長時間触れ続けることで起こるやけどです。高齢になると皮膚が薄くなることや身体機能が低下することによりやけどをしやすくなります。

消費者庁によると44度で3～4時間、46度で30分～1時間、50度で2～3分で皮膚が損傷を受けると言われます。低温やけどは痛みが少なく水膨れにもなりにくく軽傷に見えますが、皮膚の深部まで炎症が起こっているため気づかないうちに重症化していることが多いです。就寝中にはカイロは貼らない、電気毛布は高温で使用しない、湯たんぽは布団から出すなど、体の同じ部位に熱源が長時間接触しないよう注意する必要があります。

○着衣着火

調理中のコンロの火が袖口に燃え移るなど、何らかの火源により身に着けている衣服に着火して起こることを指します。消防庁の統計によると着衣着火により亡くなる8割以上が65歳以上の高齢者となっています。発生する原因として、調理中のコンロ使用時間が最も多く、それに続いてたき火や仏壇・墓参りでのろうそくの火、ストーブなどの熱源による着火が多くなっています。着衣への着火を防ぐために防災アームカバーや防災エプロンなども販売されており、調理などで火を扱う際に使用することが勧められています。また、着火してしまった場合の対処法として着火した衣類がマフラーや上着などのすぐ脱げる物の場合は着火した物を脱いで消火します。脱げない場合は水道水や風呂の残り湯などや消火器で消火します。服が脱げず近くに水もない場合は①慌てず止まって両手で顔を覆う②火のついた部位を下にして床に寝転ぶ③左右に転がるという順で消火します。

🔥火や暖房機器を扱う際にはやけどに注意をして、これからの寒い冬を安全に乗り越えましょう🔥

『通所リハビリテーション～紅葉狩り～』

八田書院へ紅葉狩りへ行ってきました。今年は暑い日が多くまだ紅葉している木は少なかったですが、良いお天気で青空の下、気持ちよく散策ができました。

